

# News

2016年12月発行 発行元: 「水の学校 | 事務局 tel: 0422-60-1914

http://www.city.musashino.lg.jp

#### 武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2016とは?

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水 道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水をとりまくさまざまなテー マをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、3年目を迎えました。

#### 連続講座レポート

#### 武蔵野の水はどこから? 第2回 ~水道水がつくられる場所を訪ねよう



7/2 (土)、暑い日差しが降り注ぐ中、武蔵野市第一浄水場を見学しました。

講座はまず水道部職員より、水道水をつくる会社はいくつある?水道水をつくるための必需品は?など、クイズを交 えながら武蔵野市の水道事情についてお話ししました。次に浄水場内を2つのグループに分かれ、監視室、配水池、除鉄・ 除マンガン装置等それぞれの施設を、地下水 100%の水を飲む体験などを含め見学しました。

その後浄水場を出て、中央通りを挟んで向かいの武蔵野緑町パークタウン内にある水源井戸を見学しました。さらに 総合体育館の会議室へ移動し、まとめのワークショップを行いました。NPO 法人雨水市民の会の笹川さんより、ご自身 の体験を交えながら日本と世界の水事情についてお話をいただいた後、1日を振り返りながらわたしたちの水の使い方 についてグループごとに話し合い、意見やアイデアを交換しました。



#### 水のできるところを見てみよう!

昨年度までは、わたしたちの使っている水がどこから来 るのか学ぶため、水源林のひとつである奥多摩町を見学し ていましたが、今年度は水がどのように家庭に送られるか に焦点を当てて、武蔵野市内にある浄水場を見学しました。

武蔵野市の水道水は、原水の約 80%が地下水で、そこ に東京都の浄水場から受水した水をブレンドしています。 見学の途中では、ここでしか体験できない、くみ上げた地 下水100%の水の試飲を体験しました。また、災害が起こっ た際に利用する、給水バッグを使った運搬体験では「こん なに重いとは思わなかった!」「取りに来られないかもし れないから、家に備蓄しなければ」との感想がありました。

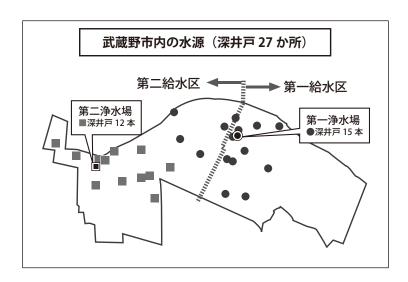


#### こんなところに!市内の水源井戸見学

武蔵野市水道水の80%を占める地下水は、市内27か所 にある水源井戸からくみ上げています。くみ上げられた水 は、深井戸 15 本分が第一浄水場、12 本分が第二浄水場に 送られ、消毒、ろ過の後に供給されています。

今回見学した緑町パークタウン内にも水源井戸があり、 こちらの水源井戸は災害時も非常用発電機を設置すること で水をくみ上げることが可能となっています。また、27 か所の水源井戸それぞれに監視カメラを設置することで、 いたずらや不審者の侵入がないよう 24 時間安全管理も徹 底しています。

普段見慣れたまちの中にも、水源井戸があることを知り、 受講生からは驚きの声が上がりました。あなたのお家のま わりにも実は水源井戸があるかもしれませんね。

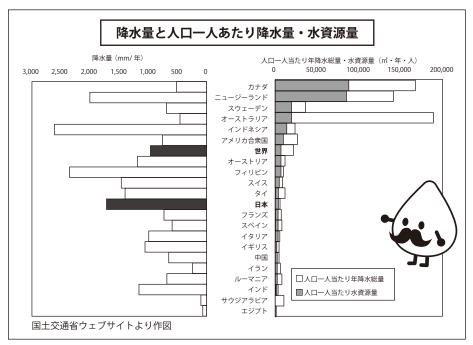


#### 受講生の声より

- ●地球の宝物をたくさんの人たちの努力と工夫に よって、私たちはいただいているのですね。
- 緊急時にも水源が使えるようになっていることに 少し安心しました。防犯・安全面も十分な対応が できていそうでした。
- 災害用の汲み置きや、雨水の利用等どんどん生活 に取り入れていこうと思いました。
- ■目に見える場所で水道部が安全な水を安定的に供 給しており、素晴らしいことだと思う。
- ふだん見られない浄水場が見られてよかったです。 金魚による水質チェックは感動です!

## フトンコラム no.16: 日本は水資源が豊富?~世界の水事情と私たちのくらし

今回の講座では、NPO 法人雨水市民の会の笹川さんより日本と世界の水事情についてお話をうかがいました。日本は雨も多いし水資源には全く困っていない、と思っている方がほとんどだと思います。日本の年間平均降水量は世界平均の約2倍ですが、河川が急で短く、水は海へとすぐ流れ出てしまいます。さらに、人口密度が高いため、一人当たりの水資源量は世界平均と比べても、とても少ないのです。また、日本は食べ物を大量に海外から輸入していますが、これも海外の水を日本へ送っていることになるのです。実は水も、海外の国に頼っているのです。パンをつくる小麦を育てるための水、牛のエサを育てるための水など、形を変えて多くの海外の水を日本は使っているのです。改めてご飯を残さず食べることの大切さを感じますね。



雨水タンク普及のため訪れたバングラデシュの水事情についてもお話いただきました。バングラデシュは人口 1 億 5000 万人、日本よりもさらに降水量の多い国です。しかし、毎年国土の 1/3 が浸水してしまう洪水被害があるほか、人口の半数近くが下水道のない環境で生活しており、水が原因で発生する伝染病が問題になっています。

さらに水道のない農村部では、女性や子どもたちが毎日2回、500mから1km先の池まで水汲みに行っています。そのような環境の中、安全な水をより身近に手に入れるため、雨水の利用がすすめられています。

雨水は流してしまえば被害を生むことも ありますが、溜めて使えば貴重な水資源と なります。どんな水を、どのように使うのか、 自分の生活を振り返って一度考えてみるこ とが大切かもしれません。

オープン講座 レポート



### 「地下 25mの地底探検と玉川上水に出かけよう」 小平市ふれあい下水道館、玉川上水、東京都薬用植物園

今年度の新しい試みとして、「水の学校サポーター」\*が講座を企画し、開催しました。夏休みということもあって、お子さんを含めた総勢 19 名が参加しました。バスで小平市ふれあい下水道館に向かい、館を見学した後、東京都薬用植物園までの 4km 弱、玉川上水沿いを散策しました。

みなさんは、下水道管の中に入ったことがありますか? 実は、東京には2か所のみ一般の方も下水道管の中に入る ことができるようにつくられた施設があります。そのうち のひとつが、今回訪れた「小平市ふれあい下水道館」です。 この施設は地上2階から地下5階まで、都市の下水道普及 の歴史や下水処理の仕組みなど下水道に関わる様々な展示 があり、見応えのある施設となっています。また、地下5 階では、潜水艦の扉のような分厚い鉄製の入り口をくぐり、 現在使用されている公共下水道「小川幹線」に入ることが できます。中に入ると、下水道管の独特な臭いや温度を肌 で感じることができます。さらに見学当日は、館内のミニ プラントから採取した汚泥を顕微鏡で観察し、"とれたて" の微生物を見せていただきました。参加者からは「下水道 管の中って広い!」や「下水処理の大切さが分かった」と 驚きと感動の声が上がっていました。

ふれあい下水道館を後にし、玉川上水沿いを歩きながら

都立薬用植物園に向かいました。玉川上水は自然の地形に沿ってできた「川」ではなく、人間が作った「用水」であるため、高い位置に引かれていることや、流れている水が "処理水(下水を処理した水)" であることを、この日同行した "やとじぃ"(第5回講師の平田英二さん)からお話しいただき、参加者の方からは驚きの声が聞かれました。

\*\*\*\*\*

東京都薬用植物園は、玉川上水から北へしばらく歩いた西武拝島線東大和駅の近くにあります。昭和 21 年に設立された薬用植物園で、どなたでも無料で入場できます。この日はスタッフの方に案内していただきながら、普段見ることのない植物を観察しました。民間薬として用いられるものや毒のある植物が並んでいる中、法律で栽培が禁止されているため2重の柵で囲われているケシ・アサ試験区が特に参加者のみなさんの目を引いていました。スタッフの案内が終了した後は広い植物園の中を思い思いに見て回ったり、木陰の休憩所で足を休めながら過ごしていました。

\*「水の学校サポーター」とは?: 2014・15 年度の連続講座修了生で構成する、水に関する自主活動や「水の学校」の企画・運営を行うグループです。